場所　東京都多摩市

面積　0.5679ha



活動目的

多摩丘陵に残る貴重な緑地として、近隣の公園や住宅団地などに残る緑地との連携を意識し、自然生態系保全、生活環境の改善、景観の向上、そして定期的に開催している緑地でのイベントなどを通じて地域コミュニティーの醸成等、地域社会に貢献することを目的としている。

サイト概要

農薬を使用せずに管理をすることで、安心して実や葉を食べられる樹木があり、地域固有の野草も季節ごとに現れ五感で楽しめる「エディブルランドスケープ」をコンセプトとし、農家の庭先や耕作地周りに見られるような生活空間としての快適性と自然の持つ美しさとが調和した「里山」をモデルとしている。 敷地内で「里山」をモデルとした雑木林、菜園、宿根草を中心とした屋上庭園、と多様な緑地を再現し、それぞれの緑地を活用しながら生物多様性を維持する緑地を目指している。

土地利用の変遷

昭和40年代以降の多摩ニュータウン造成に伴って造成された事業用地である。弊社が土地を取得した平成17年には基本造成が完了しており、その後大規模な地盤造成は行っていない。弊社が当該地を取得した時点では、敷地内にクマノミズキ等の既存高木が数本残る他は、ススキやチガヤ等が生える草地であった。本社屋建設に際しては、既存木を極力存地保存した他、やむを得ないものについては移植して利活用した。





サイト周辺の環境

多摩丘陵の北部に位置しており、団地や小中学校や保育所のある住宅地だが、周辺には大塚公園、東中野公園、山王下緑地など、地域の生きものの生息拠点となる緑地が存在する。本社敷地と道路を挟んで隣接する大塚西公園は多摩ニュータウン開発以前からあったクヌギ、コナラ、イヌシデ等の落葉広葉樹主体でまとまった雑木林を含む緑地である。

アピールポイント

外構全体で都市緑化機構のSEGESのスパラティブステージに認定されている。 そのうち、屋上庭園は国際的なランドスケープの環境認証であるSITESでゴールドに認定されている。年間で地域住民や社員が参加する、緑地を活用した様々なグリーンアクティビティを企画しており、環境教育や啓発、緑の中で楽しむ体験の場を提供している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

周辺の自然環境や景観と調和する緑地として整備されている。 周辺のいきものが利用している姿は多数確認されているが、さらに社員や周辺住民の方々にとっても憩いの場となっている。エディブルランドスケープをコンセプトに柑橘類や梅、カキやビワなどの果樹も植えられており、それらを利用したイベントやレクリエーションのプログラムも活発に企画している。

【主な植生】

本社外構空間：コナラ、イヌシデ、シラカシ等の常緑・落葉広葉樹、サクラ、ウメ、ビワ、ミカンやカキなどの果樹。屋上庭園：モミジ、サクラ、ヤマボウシ、マンサクなどの樹木と100種類以上の宿根草が四季を通して咲いている

【確認された主な動植物など】

年間通して様々な花や果樹があるため、昆虫類は特に多くみられる。アオスジアゲハ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ヤマトシジミ、などの蝶類やクマバチなどの蜂類が多く確認され、ハクセキレイ、モズ、メジロ、イソヒヨドリなどの鳥類も敷地を使用している様子が確認されている。

《確認種数》
※2018年に行われた専門家調査とその後の社員モニタリングによって確認された種数
鳥類：14種
　・モズ(学名：Lanius bucephalus、都RDB-準絶滅危惧)
　・イソヒヨドリ（学名：Monticola solitarius、都RDB-準絶滅危惧）など
昆虫類：118種



写真の説明：内庭でヨガをする様子



写真の説明：いきものモニタリングイベントの様子

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

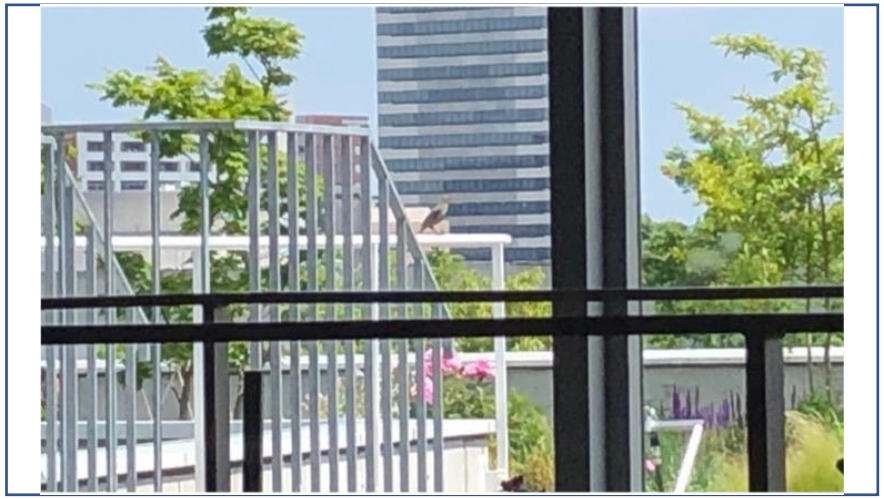
【場の概況】

グリーン・ワイズ本社に隣接する緑地として大塚西公園や東中野公園など多摩ニュータウンの開発以前からあった雑木林を含む公園がある。敷地内の植栽はこれら地域に残るわずかな自然を参照し、エディブルランドスケープをコンセプトとしている。樹林帯もあれば草花もり、周辺緑地のいきものが様々な生活史のなかで立ち寄り、利用できる緑地としてエコロジカルネットワークを形成する一助となっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【対象となる動物種】
A. シジュウカラ、メジロ、モズ(学名：Lanius bucephalus、都RDB-準絶滅危惧)、
　イソヒヨドリ（学名：Monticola solitarius、都RDB-準絶滅危惧）などの鳥類
B. アナグマ(学名:Meles anakuma、都RDB-準絶滅危惧)などの哺乳類
C. オオミズアオ（学名：Actias aliena、都RDB-絶滅危惧Ⅱ類）などの昆虫類

【動物が利用している生活史】
A. メジロ：屋上庭園における繁殖、イソヒヨドリ：屋上庭園における休息
B. アナグマ：雑木林エリアにおける採餌
C. オオミズアオ：屋上庭園における採餌、孵化、羽化



写真の説明：屋上庭園の手すりで休むイソヒヨドリ



写真の説明：プランターにとまっているオオミズアオ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

グリーン・ワイズ本社屋外の植物管理はIPM管理を導入しており、化学肥料及び、殺虫剤、殺菌剤等の化学合成薬剤は原則使用しない。これは、利用者が果実等を常に安心して享受できる状態に維持すること、土壌微生物や有用昆虫の活動を阻害しないことで植物自体を健康な状態に維持すること、植物や昆虫を餌とする生物の生育環境を維持することを目的としている。また、植栽管理で発生する落葉や剪定枝等の有機物は極力敷地内で堆肥化して林床に戻し、早期の表土形成目指している。

【管理計画の内容】
当サイトでは、多摩丘陵地域で現在もまとまった面積で畑地等の耕作が行われている良好な里山環境を選び、そこに見られる植生等の空間構造をモデ ルとして、植栽や管理の計画を行っている。敷地内の土壌・水分・日当たり等の立地条件を考慮した上で、敷地を「畑脇の果樹園・梅園」「林床の明るい雑木林の林縁」「庭先や土手の低茎草地」などゾーンに分け、適切な植栽を選定し、里地里山の異なる自然環境を再現している。それぞれのゾーンで目標像を設定しており、植生モデルの構造や特徴を記し、保存すべき植物のリストや選択的に除草すべき植物などを管理に落とし込んでいる。年間の管理スケジュールも果樹や花木の剪定、高木剪定、低木剪定、除草・下草刈りなどに分けて時期を設定し、特に草刈り作業においては、いきもののために一部の草本類を残したり、草刈りの刈り高は10-15cmにして残すなどの配慮をしている。また、外来種の排除や、地域に歓迎される草本類をモニタリングしながら、種が落ちた後に草刈り作業を行うなど、地域特有の生息地環境の保全を計画的に図っている。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
植物、鳥類、昆虫類

【モニタリング場所】
本社敷地地上部、屋上庭園における各モニタリング地点

【モニタリング手法】
植物、昆虫類においては、直接観察、鳥類は直接観察に加えて無人撮影調査を行う。

【モニタリングの実施時期及び頻度】
- 専門家によるモニタリングは5~6年に1度
- 社員による日頃のモニタリングは年間を通して随時
- 年に1度のいきものモニタリングイベントで社員家族を交えて調査

【モニタリング実施体制】